



シリーズ！ 活躍する2020年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その3

かもだ ひろかず 日本放送協会
 嶋田 浩和 kamoda.h-ci@nhk.or.jp
 https://www.nhk.or.jp



ITU-R WP5Cに日本代表団メンバーとして継続的に参加し、国内標準規格となった番組素材伝送用のミリ波帯無線伝送システムを、周波数共用条件の勧告や固定業務の最新動向に関するレポートに反映。WRC-19議題に関連して、HAPSと既存業務の周波数共用条件の検討を実施し、レポート作成やCPM文書に反映した。

放送番組素材中継システムに関する活動

この度は、日本ITU協会賞奨励賞を授与くださりまして、誠にありがとうございました。日本ITU協会ならびにご指導・ご鞭撻を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

私は、2016年からITU-R WP5Cにおいて日本代表団の一員として活動の機会をいただき、これまで主に2つの課題について取り組んできました。1つは、放送補助業務に用いる42GHz帯無線システムに関するものです。この無線システムは、ハイビジョンや4K/8K放送の機動的な中継を可能とするもので、このシステムパラメーターを周波数共用・両立性検討に用いる勧告 (F.1777) に反映しました。IMT-2020 (5G) の周波数特定が行われようとしているときでしたので、タイムリーな入力となり周波数特定の検討に貢献できたと思います。また、固定無線システムのトレンドを記載しているレポート (F.2323) にもこの無線システムの最新技術情報とユースケースを入力し、日本の取組みをPRしました。

もう1つは、WRC-19 議題1.14の高高度プラットフォーム (HAPS) に関するものです。HAPSに割り当てられた周波数帯の内、6GHz帯の利用は地域制限がありますが、これを解除するための周波数共用・両立性検討が行われており

ました。6GHz帯は放送の中継や緊急報道に用いる無線システムの周波数帯でもあります。これらを含めた国内の固定無線システムがHAPSの電波に影響を受けて問題とならないかを検討するために、HAPS推進国から提案された共用条件の内容が適切かを吟味しました。私自身は、固定無線システムの保護基準に関してほぼ素人でしたので、ITUを中心として長年固定無線システムの標準化に関わってこられた国内の先輩方のアドバイスをいただいて、日本国内の固定業務の特性を考慮した修正提案を行いました。ITU会合では、提案した前提条件が受け入れられず苦勞しましたが、最終的には互いに譲歩し、実質的に保護できる値で合意することができました。この合意は新レポート (F.2437) の作成に反映され、CPM文書にも反映されました。これにより、既存のシステムとHAPSが両方とも発展していけることを期待しています。

これらの活動を通じて国際交渉の現場を肌で感じることで大変勉強になりました。今後も電波の有効活用に貢献できるように尽力していきたいと思っております。



さいとう ひろゆき
齊藤 洋之

沖電気工業株式会社 イノベーション推進センター
saitou738@oki.com
<https://www.oki.com/jp/>



各国と議論を重ね、SG13課題21にてSDN技術に関するワークアイテムを設置し、勧告化（Y.3151）に貢献。また現在、FSAN and Q2/SG15 meetingにてPON仮想化のワークアイテムを設置し、PON仮想化やスライス化に関する要求条件の寄書提案を行っている。

ITU-T SG13及びSG15での標準化活動

この度は、日本ITU協会賞奨励賞を表彰いただき、誠にありがとうございました。これもひとえにITU-T標準化活動において一緒に仕事をされた方々、ご支援・ご協力いただいた皆様のご協力の賜物であり、多くの関係者に感謝申し上げます。

2018年から標準化提案のメンバーに加わり、SG13課題21やSG15課題2にてネットワーク、特にPON（Passive Optical Network）システムの仮想化やスライス化について議論を重ねてまいりました。2018年4月に開催されたSG13会合でネットワーク仮想化の新規ワークアイテムを提案し、その後各国と議論を重ね、2019年3月に勧告化されました（Y.3151）。

標準化活動を通して学んだことは、議論を前進させたり、勧告化するためには単に提案内容を主張するのではなく、他国の会合出席者の方々の主張を理解し、尊重しあいながら一緒に議論していくことです。時には主張がぶつかることもあり、時間内に議論が終わらないこともありましたが。その時は議論時間終了後に相手のところへ行って直接話すことで、疑問点や主張の意図などの理解を深めることができ

ました。また、一緒にランチタイムを過ごしながら、ネットワークなどの標準化の専門内容に限った議論だけでなく、様々な話題を他国の方と話し、良好な関係を築くことでその後の議論をスムーズに行うことができました。異文化コミュニケーションを図り、グローバルな視点で幅広く知識や教養を得ることの面白さや大切さを感じました。

標準化の仕事に携わらせていただき、他国の会合参加者と議論しあいながら新規ワークアイテム提案から勧告化までを経験させていただいたことに加え、良い関係を築けたことは今後の財産になりました。

現在はSG15にてPONの仮想化、スライス化について議論を行っております。グループは異なりますが、SG13で議論した方々の同僚の方とお会いし、当時の思い出も含めながらスムーズに議論ができていると感じています。

今後も各国の会合出席者や関係者と良好な関係を築きながら議論を重ね、国際標準化活動等に貢献していきたいと考えています。